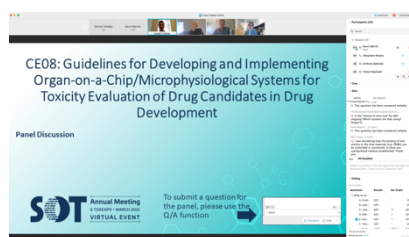


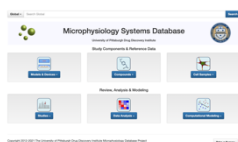
第 60 回米国毒性学会 Society of Toxicology SOT 2021 Annual Meeting Virtual 報告 教育コース CE08: Guidelines for Developing and Implementing Organ-on-a-Chip / Microphysiological Systems for Toxicity Evaluation of Drug Candidates

国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 安全性予測評価部 田邊思帆里

新型コロナウイルスの影響により、米国時間の 2021 年 3 月 12 日から 26 日にかけてオンラインにて開催されました第 60 回米国毒性学会にオンラインで参加しました。テレワークでの国際オンライン会議には OECD 等でかなり慣れてはいたものの、今回は米国東部時間 13:00-16:45 とのことで日本時間の真夜中 0:00-3:45 に相当し、うたた寝が最大の懸念でしたが、寧ろ頭が冴え渡ってくる程の大変興味深いセッションでした。ちょうど直前に米国のサマータイムが開始されていたこともあったためか、何故か前



日の同時刻にスタンバイしてしまうというハプニングもありましたが、無事に参加できて胸を撫で下ろしています。教育コースの内容は、organ-on-a-chip (OoC) /microphysiological system (MPS)の医薬品毒性評価ガイドラインで、米国の産学官の演者から 4 演題がライブ発表され、Q&A セッションとパネルディスカッションがなされました。



とても丁寧に質疑応答して下さい、multi-tissue MPS においてどのように免疫系を構築するのか質問したところ、single-tissue MPS では既に構築されつつあり、複数臓器を往来する免疫細胞やその情報伝達の再現について、現在様々なプロジェクトが進んでいるとの回答を得ました。また、国際ガイドラインの方向性について質問したところ、公式ガイドラインは公表されていないものの、今後 International Council for Harmonisation of Technical Requirements for Pharmaceuticals for Human Use (ICH;医薬品規制調和国際会議)等の場で、



ヨーロッパとも協調して進めるのが良いのではないかとの回答があり、情報提供フォローアップもタイムリーでした。国際会議で英語のイントネーションから東海岸・西海岸の差や、母国語がロマンス語系かゲルマン語系かなどを予測



するのが最近の密かな楽しみなのですが、今回のセッションではやはり東海岸系のように機長のアナウンス並のかなりスタンダードな英語で聞き取りやすかったように思いました。ポスター発表や日



本毒性学会のジョイントセッション等でもチャットが活用されており、オンライン会議はこれからも発展していくことと思います。このような貴重な機会に恵まれ大変感謝しております。どうも有り難うございました。